

2020 年核物質ポスター・しおり

解説

2020 年 6 月 9 日

[概要]

2020 年版は、例年の時期にもどって、2018 年末のデータをまとめました。

今年の特徴は、ほぼこれまでと同様で、以下の様にまとめられます。

1. 全体の核物質量は増加傾向にあり、昨年度に比べ、約 960 発分増加で、総計は 109,060 発分となっています。なお、推定値に不確実性が高いため、今年より合計値は丸めた数値としました。
2. 高濃縮ウランは、今年も減少傾向にあり、総量 1,335 トン (20,860 発分) となっています (昨年比 80 発分減少)。ただし、軍사용 (1220 トン) はインド (4.4 トン)、パキスタン (3.7 トン) 等が増産を続けており、昨年が続いて増加傾向にあります。それでも、2007 年 (1293 トン) と比較すると 70 トンほどの減少となっています。非軍사용保有量 (115 トン) は今年も減少しており、2007 年 (319 トン) と比較すると、200 トン以上の減少となりました。(図-1)
3. プルトニウムは、増加傾向が止まらず、総量 530 トン (88,200 発分) となり、昨年比 1,040 発分増加となりました。軍사용 (150 トン) はインド (7.1 トン)、パキスタン(0.37 トン)が増産している点が気になりますが、ロシアが (88 トン) が 6 トンほど減少したため、昨年 (153 トン) に比べて約 3 トンの減少となりました。非軍사용 (380 トン) は引き続き増加傾向にあり、ロシア (101 トン)、英国 (116 トン) 等の増量により、昨年 (370 トン) に比べ約 10 トンの増加となりました。非軍사용では、日本がプルトニウム燃料 (MOX) 利用の原子炉が稼働したため、約 1.6 トン減少しました (45.7 トン)。2007 年と比較すると、軍사용は 20 トン減少しましたが、非軍사용は 50 トンも増加したことになります。(図-2)

以上

図-1

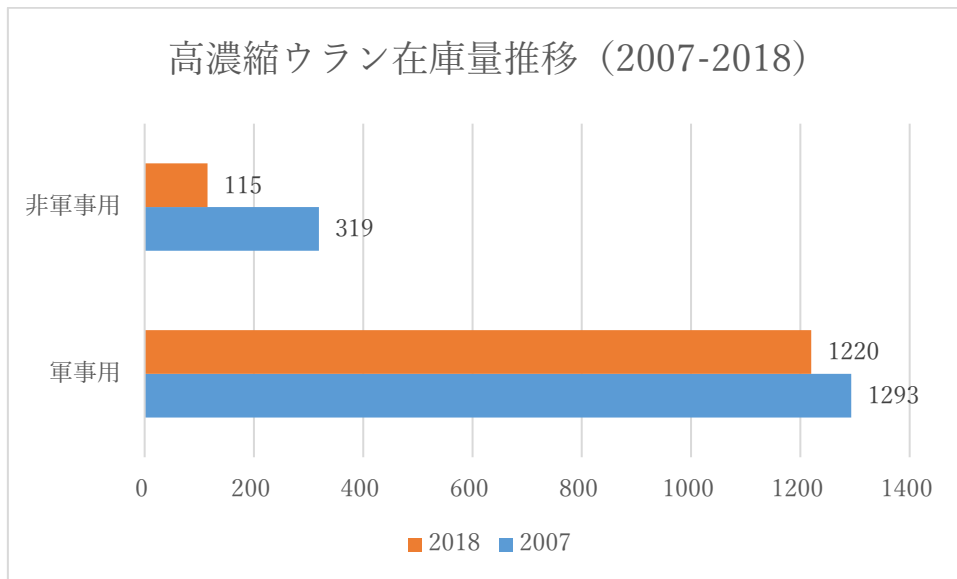
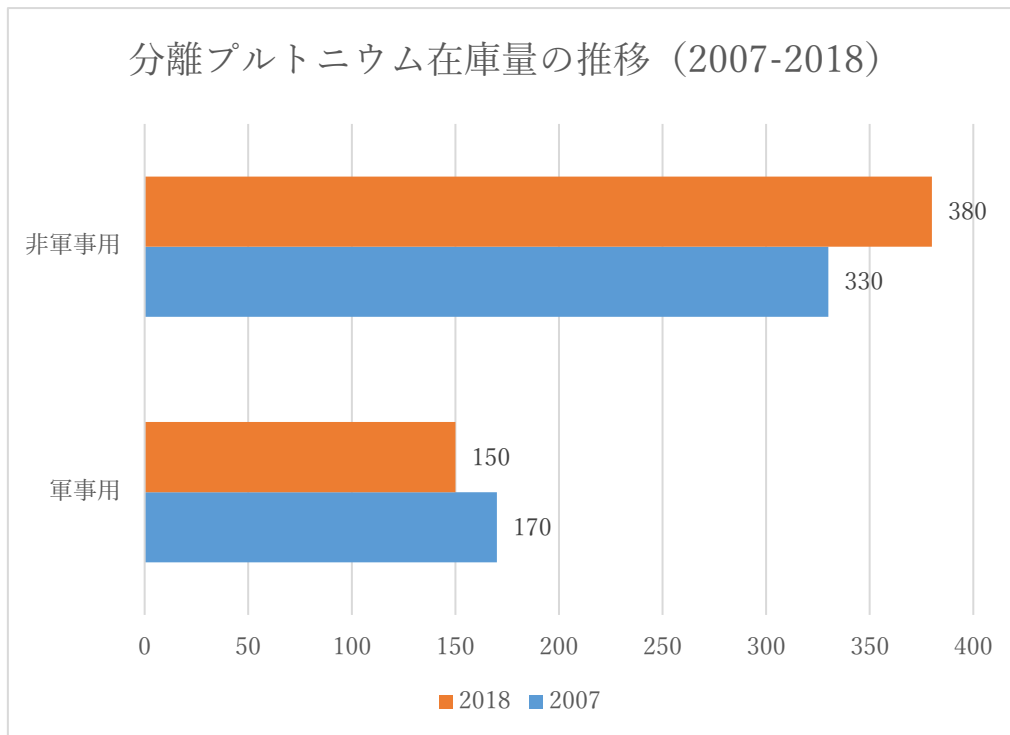
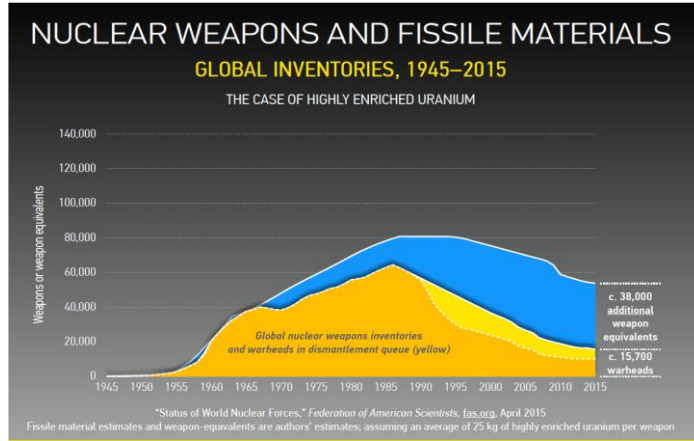


図-2

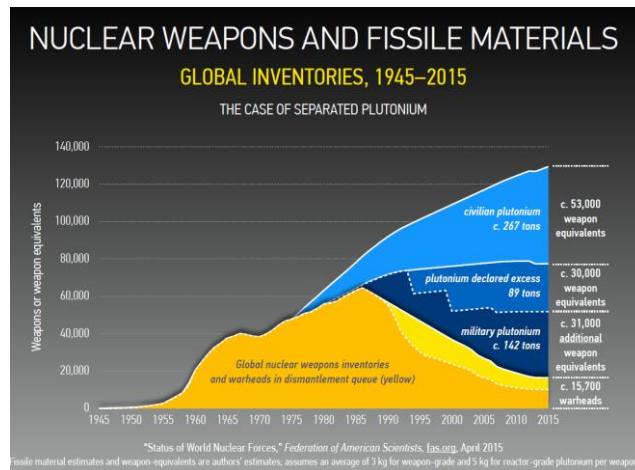


高濃縮ウラン在庫量推移 -1990年をピークに減少中



核弾頭以外
核弾頭中に
含まれる

世界の分離プルトニウム在庫量 推移：民生用が増加中



民生用
軍事用余剰
軍事用（核弾頭外）
核弾頭内